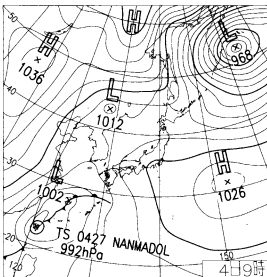


日々の天気図

— No. 35

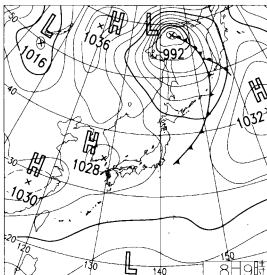
2004年12月

- 4日～5日、低気圧が急発達。徳島県穴吹町216 mm/日等、広い範囲で大雨。関東は晴れて夏日。
- 17日、北海道付近で低気圧が発達。釧路市で歴代3位の最大瞬間風速35.3 m/s。
- 31日、本州南岸の低気圧により、関東の平野部で雪。東京積雪2 cm。(気象庁予報部予報課)



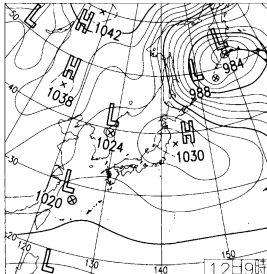
4日(土)低気圧急速に発達

東シナ海の低気圧が発達しながら北東進。九州から雨が降り、夜には東日本も。雨量は太平洋側で多く、徳島県穴吹町で216 mm/日。台風は先島諸島近海で温帯低気圧に変わる。



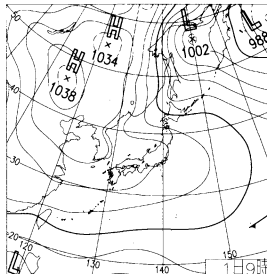
8日(水)冬型緩む

冬型気圧配置は緩むが、北日本は寒気の影響が残り雪や雨。その他は移動性高気圧に覆われ概ね晴れ。横浜では平年より46日早くタンポポが開花、最早記録。



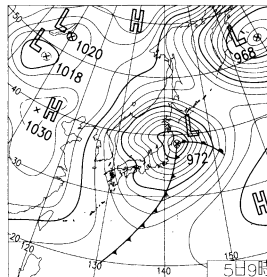
12日(日)北海道降雪続く

朝鮮半島と東シナ海の低気圧の東進で、東北以南は概ね曇りや雨。北海道は寒気の影響が残り降雪が続く。美深町では9時までの24時間に30 cmの降雪、上川町で積雪61 cm。



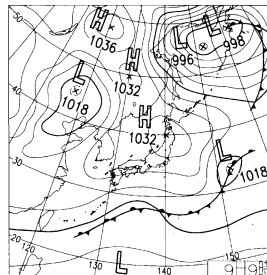
1日(水)ほぼ平年並の気温

北日本は冬型気圧配置により所々で雪。その他は大陸の高気圧に覆われ概ね晴れ。気温は一部で平年を下回った他は、ほぼ全国的に平年並か平年より高い。



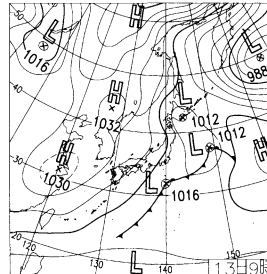
5日(日)関東師走の夏日

低気圧は15時までに28 hPa/24 h発達。全国的に大荒れ。千葉市で最大瞬間風速47.8 m/s。関東は晴れて、山越えの西風によるフェーン現象が加わり、埼玉県熊谷市で26.3℃等、夏日。



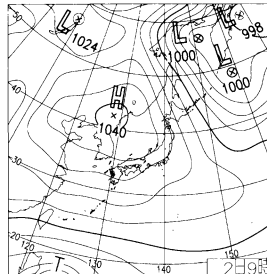
9日(木)関東暖かい朝

北海道は寒気の影響でぐれ。太平洋側は南海上の前線の影響で曇り。その他は高気圧に覆われ晴れ。関東の最低気温は平年より高く、11月中旬並の暖かい朝。



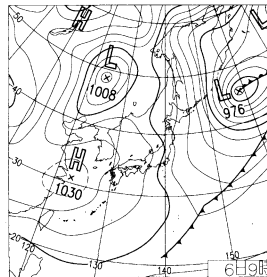
13日(月)全国的に気温高い

一時的に弱い冬型の気圧配置。北海道は雪。北陸～北日本の日本海側は所々で雨。その他は概ね晴れ。気温は北海道では平年並の他は、全国的に平年より2～4℃高い。



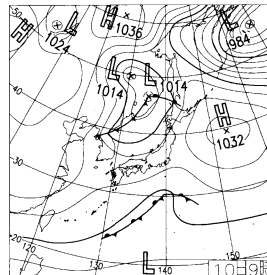
2日(木)北海道上空に強い寒気

稚内上空5000 m付近に-40℃の寒気が入り、北海道は所々で雪。その他は移動性高気圧に覆われ概ね晴れ。最高気温は北海道で平年より低く、西日本で3～4℃高い。



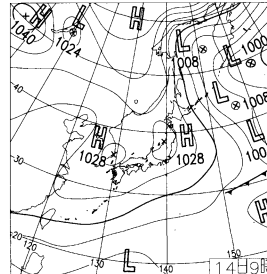
6日(月)北海道東部震度5強

冬型気圧配置で北海道は雪。北陸・東北の所々で雨の他は概ね晴れ。北海道留辺蘂町で9時までの24時間に51 cmの大雪。北海道厚岸町で震度5強。富山湾で寒ぶり漁が最盛期。



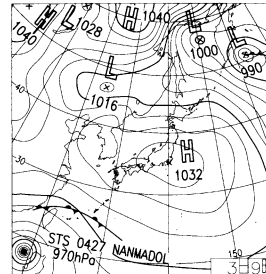
10日(金)全国的に昇温

沿海州の低気圧に向かって暖かい南風が入り、全国的に気温が上昇。最高気温は日本海側では平年より7～9℃高く、10月下旬～11月上旬並。台風第28号発生。



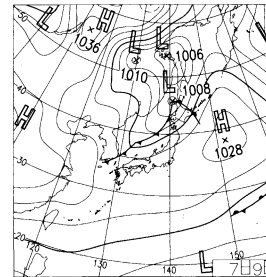
14日(火)北海道留萌震度5強

冬型の気圧配置は緩み、移動性の高気圧に緩やかに覆われ全国的に晴れ。最高気温は北日本と関東で平年より低く、その他は高い。北海道留萌支庁で震度5強の地震。



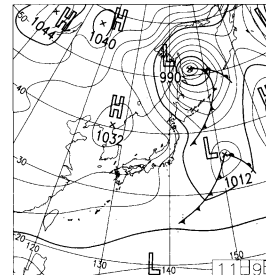
3日(金)放射冷却により各地で霜

南西諸島は前線や台風第27号により、北海道は気圧の谷の影響で、所々で雨。その他は高気圧に覆われ晴れ。放射冷却により気温が下がり、仙台では平年より27日遅い初霜。



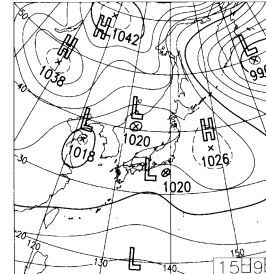
7日(火)日本海側しぐれ

寒冷前線の通過により日本海側や北日本は雨や雪。その他は曇りや晴れ。前橋市で平年より24日遅い初霜。甲府市では、カエデが平年より15日遅い最晩の紅葉。



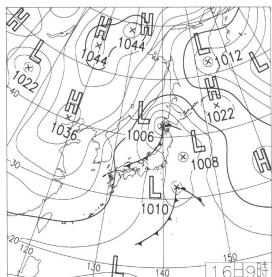
11日(土)北海道風雪強い

オホーツク海で低気圧が発達し、北日本中心に冬型気圧配置。北海道は風雪強まり、浦河町で最大瞬間風速32.3 m/s。北陸・東北の日本海側は雨や雪。その他は高気圧に覆われ晴れ。



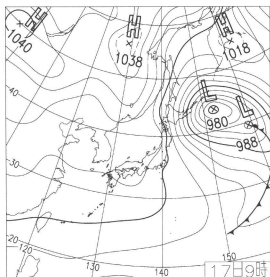
15日(水)水戸市ウメ開花

日本付近を気圧の谷が通過。北日本は雨や雪。関東南部は雨。その他は概ね曇り。岩手県宮古市では平年より29日遅い初霜。水戸市で平年より49日早いウメの開花。



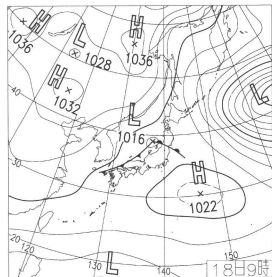
16日(木)日本海側しぐれ

日本海の低気圧が発達しながら北日本を通過。北海道は雪、本州の日本海側は雨。その他は晴れ。北海道札幌加内町では積雪71 cm。最高気温は太平洋側で概ね11月中旬並。



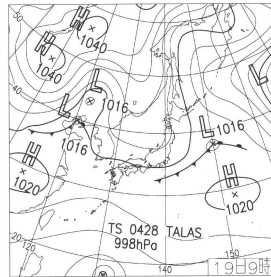
17日(金)東北各地遅い初雪

北海道東海上で低気圧が発達。北日本は風雪が強い。日本海側で一時的にぐれは概ね晴れ。北海道倶知安町で最大瞬間風速35.3 m/s。東北各地で平年より約30日遅い初雪。



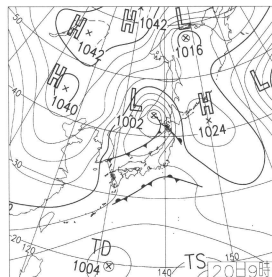
18日(土)那覇市夏日

前線を伴った低気圧の通過で、日本海側を中心に雨。北海道は雪。九州～南西諸島は最高気温が平年より5℃前後高く、那覇市では11月上旬並の25.3℃。



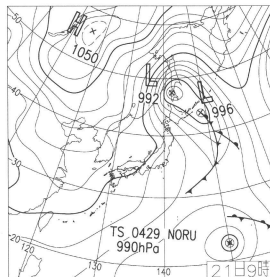
19日(日)台風第29号発生

上空の気圧の谷の動きが速く、西日本から雲が広がり、午後には関東・東北も曇り。北海道は冬型気圧配置で、日本海側で雪。マリアナ諸島近海で台風第29号発生。



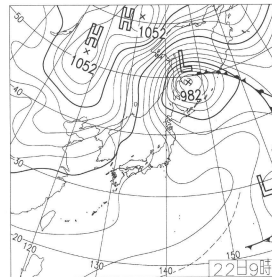
20日(月)本州は寡積雪

日本海北部の前線を伴った低気圧の北東進に伴い、北日本と日本海側で雨。その他は概ね曇り。本州は積雪が少なく、9時の積雪は青森県酸湯の44 cmが最大(平年比38%)。



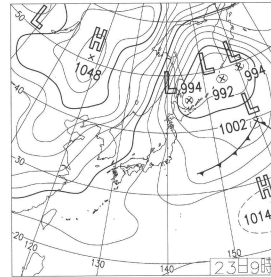
21日(火)新潟市遅い初雪

札幌の上空5000 m付近に-35.3℃の寒気が入り、北日本を中心に冬型気圧配置が強まる。北日本は雪。北陸～山陰の所々で雨や雪の他は晴れ。新潟で平年より27日遅い初雪。



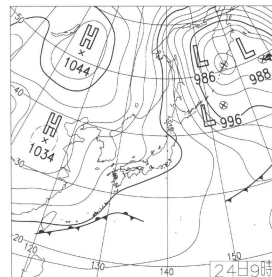
22日(水)北海道本格的な雪

冬型気圧配置が続く。北海道と東北の日本海側は雪。北陸は雨か雪。その他は概ね晴れ。北海道美深町では9時までの24時間に降雪量41 cm。台風第29号は温帯低気圧に変わる。



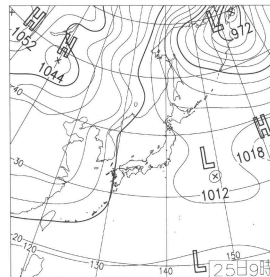
23日(木)中国地方遅い初雪

冬型気圧配置が続く。北陸以北は雪。近畿北部や山陰は雪や雨。その地は概ね晴れ。島根県西郷町では平年より28日遅い初雪。高知市で平年より39日早いつばきの開花。



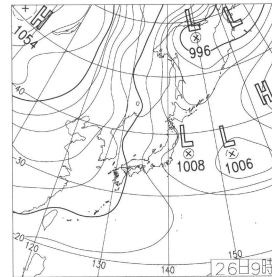
24日(金)全国的に寒い一日

冬型気圧配置が続く日本海側は雨や雪。太平洋側は概ね晴れ。南西諸島は前線の影響で曇りや雨。東日本以西の気温が久しぶりに平年並程度に下がり、全国的に寒い一日。



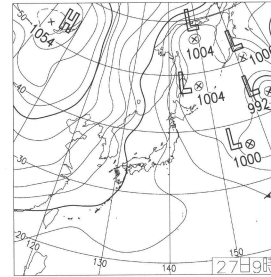
25日(土)冬型弱まる

弱い気圧の谷の影響で冬型気圧配置は弱まる。北陸から北では所々で雨や雪。中国・四国・九州では所々で雨。千葉県館山市では、春を告げるポピーの花が見頃。



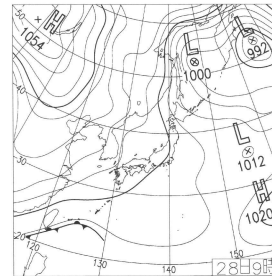
26日(日)スマトラ島沖巨大地震

気圧の谷の通過で北陸～山陰はしぐれ。北日本は雪。その他は概ね晴れ。スマトラ島西方沖でM9.0の大地震。インド洋沿岸国では大津波が発生し甚大な被害。



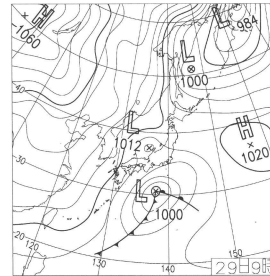
27日(月)南西諸島は曇りや雨

冬型の気圧配置。北陸から北の日本海側は雪。南西諸島は大陸高気圧の南縁で、冷たい北東風の影響で曇りや雨。最高気温は北日本と南西諸島で平年より低い。高松でウメの開花。



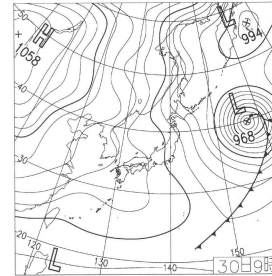
28日(火)九州遅い初雪

冬型の気圧配置。北陸以北の日本海側は雪。沖縄は前線の影響で雨。その他は概ね晴れ。九州各地で初雪。熊本市では平年より36日遅い。横浜市で平年より7日早い初雪。



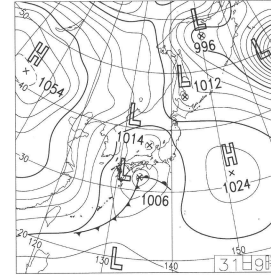
29日(水)関東初雪

本州の南海上を低気圧が発達しながら北東進。西日本の太平洋側は雨のち晴れ。東日本～東北の太平洋側で雪。関東各地で初雪。水戸で積雪5 cm。帰省時の高速道路に乱れ。



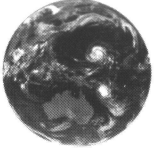
30日(木)関東など真冬並

低気圧が北東進し冬型気圧配置に戻る。稚内上空5000 m付近には-45℃以下の強い寒気。山陰から北の日本海側は雨や雪。太平洋側は晴れ。寒気の流入で、関東など真冬並の寒さ。



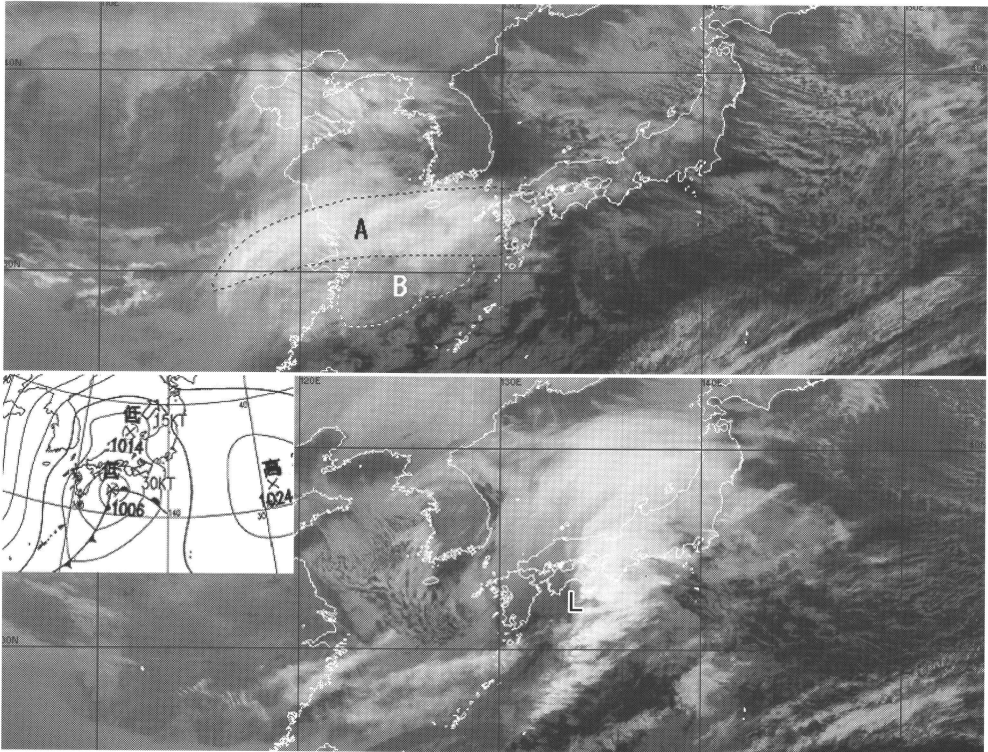
31日(金)東京大晦日の積雪

低気圧が本州南岸を発達しながら北東進。中国地方～東北地方は雪。積雪は埼玉県熊谷市で13 cm、東京で2 cm。東京で大晦日の積雪は21年ぶり。



今月の衛星画像—2004年12月

南岸を通過した低気圧による大みそかの雪



上段 2004年12月30日15時の赤外画像。

下段 2004年12月31日09時の赤外画像，地上天気図。

12月31日は関東地方を中心に雪となり、年越しのイベントや交通機関に大きな影響がでた。この雪は東シナ海で発生した低気圧が急速に発達しながら日本の南岸を進んだ影響によるものである。

写真上段は低気圧が発生する直前の、30日15時の赤外画像である。東シナ海には白く写る上層雲域 A と灰色に写る下層雲域 B が見られるが、まだ組織化していない。

写真下段は31日09時の赤外画像である。前日東シナ海にあった雲域は東進しながらまとまりを見せ、近畿地方付近に達した。地上天気図では四国沖（画像中 L

印）に低気圧を解析しており、東北東に30ノットで進んでいる。この低気圧に対応する雲域は、日本海にかけて上層雲が北に盛り上がり、濃白色の厚い雲域となっており、低気圧が発達していることを示唆している。雲画像からは雨と雪の判別はできないが、低気圧の中心に近い潮岬では雨、やや離れた名古屋では雪が観測されている。低気圧はその後発達しながら伊豆諸島北部を通過し、都心に21年ぶりの大みそかの降雪をもたらした。

（気象衛星センター）